

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 6 月 28 日 (2007.6.28)

【公開番号】特開 2006-14640 (P2006-14640A)

【公開日】平成 18 年 1 月 19 日 (2006.1.19)

【年通号数】公開・登録公報 2006-003

【出願番号】特願 2004-194653 (P2004-194653)

【国際特許分類】

**A 0 1 K 89/027 (2006.01)**

**A 0 1 K 89/01 (2006.01)**

**F 1 6 D 49/00 (2006.01)**

【F I】

A 0 1 K 89/027 5 0 1

A 0 1 K 89/01 Z

F 1 6 D 49/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 5 月 11 日 (2007.5.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 6】

ロータ駆動機構 1 0 5 は、図 1 2 に示すように、ハンドル 1 0 1 が回転不能に固定されたハンドル軸 1 1 0 とともに回転するマスターギア 1 1 1 と、このマスターギア 1 1 1 に噛み合うピニオンギア 1 1 2 とを有している。ハンドル軸 1 1 0 は、リール本体 2 に回転自在に支持されている。図 1 3 に示すように、ピニオンギア 1 1 2 は筒状に形成されており、その前部 1 1 2 a はロータ 1 0 3 の貫通孔 1 0 3 e を貫通してスプール 1 0 4 側に延びている。この前部 1 1 2 a で、ロータ 1 0 3 はナット 1 1 3 によりピニオンギア 1 1 2 に回転不能に固定されている。ピニオンギア 1 1 2 は、前部と中間部とで軸受 1 1 4 a , 1 1 4 b によりリール本体 1 0 2 に回転自在に支持されている。ナット 1 1 3 は、リテーナ 1 3 6 により緩み止めされている。またナット 1 1 3 は、軸受 1 1 3 a によりスプール軸 1 0 8 に接触している。これにより、ピニオンギア 1 1 2 の内周面とスプール軸 1 0 8 の外周面との間に隙間を形成している。リテーナ 1 3 6 は前壁 1 0 3 d に抜け止めばね 1 3 6 a により係止されている。また、リテーナ 1 3 6 には、シール部材 1 3 6 b が装着されており、ロータ 1 0 3 内部への液体の浸入を防止している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 7】

オシレーティング機構 1 2 0 は、図 1 に示すように、トラバースカム式のものであり、ピニオンギア 1 1 2 に噛み合う中間ギア 2 0 a と、リールボディ 2 a にスプール軸 1 0 8 と平行な軸回りに回転自在に装着された螺軸 1 2 0 b と、螺軸 1 2 0 b の回転により前後移動するスライダ 1 2 0 c とを有している。スライダ 1 2 0 c にスプール軸 1 0 8 の後端部が回転不能かつ軸方向移動不能に取り付けられている。なお、図 1 3 に示すように、螺軸 1 2 0 b の前端部を回転自在に支持するブッシュ 1 2 0 d は、端面から軸方向に突出す

る突出部 120e により回り止めされている。これにより、径方向に突起を設ける場合に比べて周囲に別の部材を装着しやすくなる

〔レバースレーキ機構の構成〕

レバースレーキ機構 6 は、図 12、図 13 及び図 16 に示すように、制動部 116 と、制動部 116 の制動力を調整操作するための制動レバー 117 と、制動レバー 117 を装着部 102c から離反する方向に付勢するコイルばね 119 と、制動レバー 117 により所定制動状態と制動解除状態とに切換可能な所定制動部 121 (図 16) とを有している

。